

②基本水量（10m³）は廃止します。



これまで、10m³までは基本料金のみのお支払い（基本水量）だったけど、これからは1m³から従量料金もあわせてお支払いいただくことになったんだ。



ちょっと待って！基本料金？従量料金？ちゃんと料金の仕組みから説明してよ。



ごめんなさい！水道料金は基本料金と従量料金で構成されているんだ。

基本料金

基本料金は、使用水量が多いか少ないかにかかわらず、給水管の大きさ（口径）ごとに決められている定額の料金です。

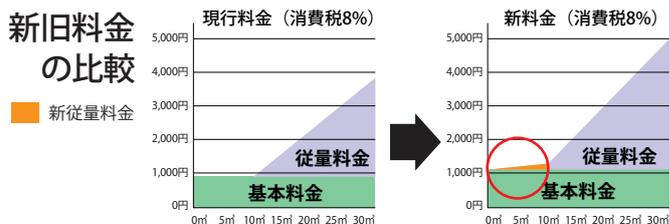
主に浄水場や水道管などの施設を適切に維持するための費用や、検針・集金・水道メーターなどお客さまが存在することで発生する費用などをまかさないます。

従量料金

従量料金は、使用水量に応じてお支払いいただく料金で、1m³あたりの単価を設定しています。従量料金単価は一律が望ましいですが、少量使用の方への配慮などから使用水量が増えるほど高くなるよう設定しています。

主に、琵琶湖からとった水を浄水場できれいにする費用や、きれいになった水をお客さまへお届けするために必要な電気代などをまかさないます。

新旧料金の比較



今までは10m³までは基本料金のみでよかったのに、どうして従量料金まで払わないといけないくなったの？



もともとは水道がまだあまり普及していなかった時代に、水道の利用を促すために設けられた制度なんだ。それに、全く使っていない人と、10m³使った人が同じ料金というのは、公平ではないよね。使った量だけ料金を支払うほうが、よりお客さまに納得していただけたら考えたからなんだ。

料金値上げと基本水量の廃止による影響額 (1か月分の料金：口径20[㍉]の場合)

使用水量 (1か月分)	現行料金 (消費税8%込)	新料金 (消費税8%込)	影響額
0m ³	907円	1,090円	+183円
5m ³	907円	1,117円	+210円
10m ³	907円	1,144円	+237円



0m³から、使用水量によって金額が変わるようになるのね。

③基本料金が大きく変わります。



一般的な家庭では口径13[㍉]や20[㍉]の給水管を使っているけど、商店や工場、学校など水を多く使うところではもっと口径が大きい給水管を使っているんだ。

口径の大きさに見合った負担をお客さまにお願いするために、口径ごとの基本料金を大きく変えたんだ。



大きい口径のところは基本料金が大幅に値上げになるのね。そうすると負担がものすごく大きくなるんじゃないの？



従量料金は水を使えば使うほど単価が高くなることをさっき説明したよね。

今回の料金改定で、単価の上がり方を抑えることで、水を多く使っているお客さまの負担が急激に大きくなるように配慮しているんだ。



じゃあ、大きい口径だけどそんなに水を使わないところでは負担が急激に大きくなるんじゃないの？



残念ながらそうになってしまうんだ。本来は、使用水量に見合った口径の給水管を使うことが原則。だから、そういう場合は口径の小さい給水管に変えることが必要になるんだ。そのために必要な費用の一部を補助する制度を設けたので、ぜひ活用してね。(9ページの「天津市給水管減径工事補助金の案内」をご覧ください。)

※下水道使用料に変更はありません。

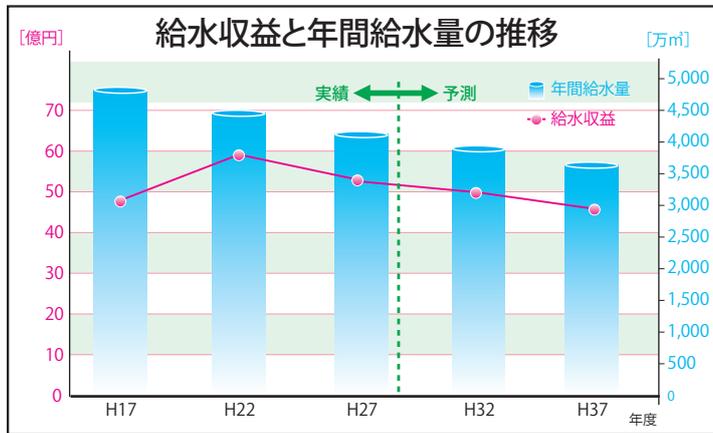
Q どうして水道料金を値上げしないといけないの？

日々節水に努めて水道料金を抑えているのに値上がりするなんて…。一体どうして料金値上げをしないといけないの？



ご迷惑をおかけして本当にごめんなさい。実は、水道事業の経営はこれからとっても厳しくなることが予想されるんだ。その理由を説明するね。

水の需要が減って、売上高（給水収益）が少なくなっています。



水の使用を抑えることは、環境にやさしい取り組みではあるけれど、お客さまの節水意識の向上や、節水型機器の普及などによって、水の需要は減少傾向が続いているんだ。水の需要が減るということは、売上高（給水収益）も減るとのこと。水道水をお届けするために必要な収入がここ5年間で約5億円も減ってしまったんだ。これからは人口が減少していくことも予測されているし、水の需要も売上高もますます減っていくと予想しているんだ。

地震に強い水道施設にしたり、古くなった水道施設を新しくするために、これからもっとお金が必要になります。

大津市では大きな地震が起きても、お客さまに水道水をお届けできるように、地震に強い施設づくりをすすめているんだ。数値目標を設定して、その達成に向けて、事業を行っていくよ。また、これから古い（法定耐用年数を超える）水道管の割合がどんどん増えていく。水道管を修理したり新しくするために、これからもっとお金が必要になるんだ。

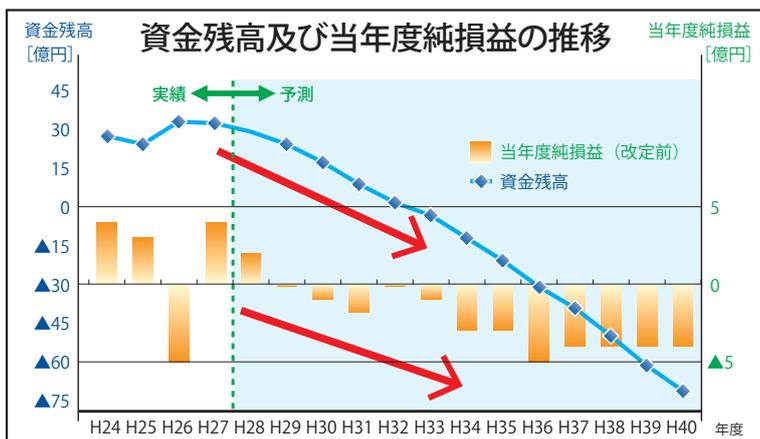


	平成27年度末実績	平成40年度目標
浄水施設の耐震化率	2.8%	60.4%
基幹管路の耐震化率	30.1%	47.1%



そういえば市内でも古くなった水道管に穴が開いて、道路が水浸しになったり、断水したり…なんていう事故があったわね。こういうのが頻繁に起こるようになったら困るわ。

売上高が減るのに、お金はますます必要に…経営がより一層厳しくなっていくます。



売上高が減っていくのに費用はかかるとなると、収支のバランスがとれなくなる。平成29年からは収入で費用をまかなえなくなって、赤字が続くと予想されるんだ。売上高が減ったら、借金（企業債の発行）するという手もあるけど、将来世代にツケを残すわけにはいかないよね。借金は最低限に抑えることを目標にすると、手持ちの資金はこれからどんどん減って、平成33年にはなくなってしまうと予想しているんだ。

Q 値上げの前に、経営努力をもっとするべきでは？



経営が厳しくなるってことはわかったけど…。値上げする前に、経費の削減とか、経営努力をもっとするべきじゃないかな？



そのとおりなんだ。経費の削減のために、これまでもいろいろな取り組みをしてきたし、もちろんこれからも続けていくよ。
企業局の経営努力についての取り組みを紹介するね。

時代の変化にあわせて職員の数を管理しています。

平成18年から27年までの10年間で、水道事業に携わる職員の数は150人から約40人程減って、108人になりました。限られた職員数でも安定して業務ができるよう、研修を重ねたり、他の自治体職員と人事交流をしながら、技術の継承や向上に取り組んでいます。

民間企業の力を積極的に活用して、効率的な経営手法を取り入れています。

民間企業の経営のノウハウを企業局の業務に取り入れることで、効率的な経営を行っています。例えば、浄水場の運転管理や、「企業局お客様センター」の窓口のお仕事を民間企業にお願いすることで、経費の削減やお客さまサービスの向上につなげています。

今後は浄水場の維持管理や修繕業務、さらには浄水施設を新しくする際の設計から構造物の建設までを民間企業にお願いすることで、さらなる経費の削減に取り組んでいきます。

浄水場の統廃合を進めていきます。

市内に6つある浄水場のうち、比良浄水場と八屋戸浄水場は機械や電気の設備が古くなってきています。新たな浄水施設に取り替えるには多くの費用がかかることから、将来的にはこれらの浄水場を廃止して、真野浄水場から水を送れるようにすることを考えています。

また、水の需要が減少すれば浄水場の数は少なくてすむことから、将来的には膳所浄水場を廃止し、設備の更新や維持管理にかかる費用を削減することを検討しています。

【大津市給水管減径工事補助金の案内】

◆メーター口径が大きく、使用水量が少量のお客さまについては、改定率が非常に高くなるため、利用実態に応じた給水管口径への変更工事に対して補助制度を創設します。

対象口径：30mm以上
対象工事：配水本管から建物までの全ての給水管
補償額：工事費総額の1割
（上限は右の表の金額）
実施期間：平成28年12月1日から
平成31年3月31日まで

変更前の口径	補助金額の上限
30・40mm	40,000円
50mm	60,000円
75mm	80,000円
100mm以上	100,000円

※道路境界から敷地内での給水管を対象とした工事については補助対象外となりますが、基準緩和により認められる場合があります。詳しくは、企業局ホームページ「給水管減径工事補助制度について」をご覧ください。か、（右記QRコードよりアクセスするか、検索エンジンで「大津市企業局 減径補助」で検索してください。）お客様設備課までお問い合わせください。



安心・安全な水道水を次世代に引き継ぐために、 皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先 料金について : お客様センター ☎077-528-2603
減径補助制度について : お客様設備課 ☎077-528-2605